

令和2年度 藍野大学短期大学部 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科:第一看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野Ⅰ	看護学概論	上田 愛子	専任	15	30	30	1	1	
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	渡辺 史子	専任	15	30	30	1	1	
	成人看護学方法論Ⅱ	田中 裕樹	専任	15	30	30	1	1	
	小児看護学概論	小原 園子	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学概論	大西 康之	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学方法論	中野 幸恵	専任	15	30	30	2	1	
合計単位数							7		
省令で定める基準単位数							7		

学科:第二看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野Ⅰ	看護学概論Ⅰ	河合 まゆみ	専任	15	30	30	1	1	
	看護学概論Ⅱ	山口 美晴	専任	15	15	15	1	3	
	基礎看護学方法論Ⅵ	松本 明子	専任	15	15	15	1	2	
	基礎看護学方法論Ⅶ	磯田 容子	専任	15	30	30	1	2	
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	八幡 久美子	専任	15	30	30	1	1	
	老年看護学方法論Ⅱ	播木 清美	専任	15	30	30	1	2	
	母性看護学概論	中村 乃利子	専任	15	30	30	1	1	
	小児看護学方法論Ⅱ	橘 依子	専任	15	30	30	1	2	
	精神看護学概論	谷川 英二	専任	15	30	30	1	1	
統合分野	在宅看護概論	狩野 由紀子	専任	15	30	30	1	2	
合計単位数							10		
省令で定める基準単位数							10		

学科:専攻科(地域看護学専攻)

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野	公衆衛生看護学概論Ⅰ	北本 さゆり	専任	8	15	15	1	1	
		菊川 縫子	兼任	2	4				
	公衆衛生看護学概論Ⅱ	北本 さゆり	専任	8	15	15	1	1	
	成人保健指導	山下 裕子	専任	8	15	15	1	1	
	健康教育論Ⅱ	朝山 友介	専任	8	15	15	1	1	
合計単位数							4		
省令で定める基準単位数							4		



シラバス参照

講義名	看護学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 上田 愛子	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護の基礎として歴史的な変遷、看護の概念、看護の構造や機能、役割について体系的に学び、看護に関する基礎的知識及び態度を習得する。患者を取り巻く医療チームにおける看護の役割と連携について学習し、看護職としての自己の看護観を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念及び、目的・目標・機能を理解できる。 2. 社会・文化的背景と関連付けて看護の変遷を理解し、将来についての展望を持つことができる。 3. 現代における医療・看護の役割、活動について理解できる。 4. 看護の基盤となる思考過程の意味するところを理解できる。
学位授与方針との関連	看護師および保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	上田 愛子	初回ガイダンス 看護の本質	授業の進め方と授業に臨む姿勢について、「看護観」について 看護の基本となる定義と概念、職業としての看護、学問としての看護（講義）
第2回	上田 愛子	看護学の主要概念	患者中心の看護、「患者中心の医療」7つの要素 看護学の主要概念、看護知識の発展（講義）
第3回	上田 愛子	看護の歴史	看護の変遷（看護の過去から現在まで）（講義）
第4回	上田 愛子	看護理論家における看護の定義	ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、トラベルビー、ロイ（講義）
第5回	上田 愛子	看護の対象	全体としての人間、成長・発達する存在、ニーズをもつ存在、生活を営む存在、適応する存在、社会・文化的存在、ライフサイクルと発達課題（講義）
第6回	上田 愛子	健康と生活	健康とは何か、健康の諸相、健康生活とQOL、生活習慣とセルフケア、健康への影響要因（社会的法的要因と健康格差）（講義）
第7回	上田 愛子	対象との関係の形成	信頼関係、援助関係、協働関係（講義）
第8回	上田 愛子	看護における連携と協働	看護職間の連携と協働、多職種間の連携と協働、チームでの活動（講義）
第9回	上田 愛子	看護における感染管理	感染症の歴史、感染予防対策（スタンダードプリューション）、新型コロナウイルス感染症に対する看護の視点
第10回	上田 愛子	看護における感染管理	感染症の歴史、感染予防対策（スタンダードプリューション）、新型コロナウイルス感染症に対する看護の視点
第11回	上田 愛子	看護における倫理 看護の倫理	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳、医療の倫理原則、看護とインフォームドコンセント、専門職としての倫理（講義） 専門職としての倫理、医療をめぐる倫理原則とケアの倫理（講義）
第12回	上田 愛子	看護における学習支援	看護における学習支援とは、事例をもとに集団を対象に健康教育を行う（講義）

第13回	上田 愛子	看護情報管理 基盤となる思考過程	医療情報と看護情報 看護における情報管理 看護記録・報告と共有 EBN (講義)
第14回	上田 愛子	医療安全 基盤となる思考過程	事故発生のメカニズム ヒューマンエラーを防ぐためのクリティカルシンキング (講義)
第15回	上田 愛子	クリティカルシンキング能力の育成	「批判」と「批難」の違い ディベート (5分間) > 発表 (15分間) > 解説 (講義・演習)
授業時間外の学習	看護学概論の授業形態の基本は、反転学習です。前もって指示されたレポート課題を提出して授業に臨んでください。		
目安時間	15時間程度		
教科書	「新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論」 メヂカルフレンド社 「看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理」 日本看護協会出版会		
参考文献等	「看護覚え書」 フローレンスナイチンゲール 「患者中心の看護」 アブデラ		
評価の方法	レポート (50%) ・ 小テスト (50%)		
授業に関する実務経験	看護師として病院に勤務した経験及び、看護管理者として社会福祉法人で勤務した経験を基に、「看護の基礎」について理解を深められるように教授する。		
オフィスアワー	講義の日の放課後		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 渡辺 史子	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	成人期の各発達段階における生活行動の特徴を身体的・心理的・社会的に総合的に理解する方法を学ぶ。成人期の各発達段階と発達課題を関連させて理解し、成人看護学の理論をもとに看護援助の概要を学ぶ。成人期の健康障害が個人のみならず家族や社会生活に及ぼす影響について理解し、その看護援助について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人各期の健康保持・増進や疾病の予防について理解できる。 ・成人期にある人が最適な健康を維持・促進するための看護援助が理解できる。 ・成人期の健康生活を多角的にとらえる視点を持ち看護実践に生かすことができる。 ・成人の多様な健康問題に対応するための看護援助の基本的考えや方法を学ぶことができる。
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 ②社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 ③修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 ④医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	渡辺 史子	成人の生活と健康	身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する（講義）
第2回	渡辺 史子	成長・発達における成人期の特徴	成人各期の発達段階・発達課題の特徴を理解する（講義）
第3回	渡辺 史子	成人期における役割・健康問題・身体機能の特徴	成人を取り巻く環境と生活からとらえた健康問題を理解する（講義・演習）
第4回	渡辺 史子	生活習慣に関連する健康問題	生涯発達論や他者との相互性、また生活習慣や社会的役割に関連した健康問題を理解する（講義・演習）
第5回	渡辺 史子	成人への看護アプローチの基本	個人へのアプローチのみならず家族や社会における様々な集団を含め看護の対象として理解する（講義・演習）
第6回	渡辺 史子	成人の健康行動の捉え方	アンドラゴジー・エンパワメント・行動変容を促進するアプローチ（講義・演習）
第7回	渡辺 史子	ヘルスプロモーションと看護	地域社会における成人のヘルスプロモーションを促進する看護（講義・演習）
第8回	渡辺 史子	ストレスに関連する健康障害	就労・労働形態がもたらす健康問題と職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護（講義・演習）
第9回	渡辺 史子	健康をおびやかす要因	生活行動がもたらす健康問題とその予防（講義・演習）
第10回	渡辺 史子	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	急性期にある人の看護と救急医療を必要とする人々への支援（講義・演習）
第11回	渡辺 史子	障害がある人の生活とリハビリ	急性期のリハビリテーションと回復期のリハビリテーションと看護（講義・演習）

	子	ーション	習)
第12回	渡辺 史 子	人生の最後のときを支える看護	緩和ケア・全人的苦痛（トータルペイン）・スピリチュアルペインについて理解する（講義・演習）
第13回	渡辺 史 子	治療過程にある患者への看護技術	治療による身体侵襲から回復を促進する看護・ボディーイメージの変化に対する看護（講義・演習）
第14回	渡辺 史 子	新たな治療法、先端医療と看護	意思決定を支える看護（講義・演習）
第15回	渡辺 史 子	まとめ	（演習）
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は基本的に教科書を中心に進めていく。 ・授業前は事前に期限内に課題を提出すること。（事前課題の内容は授業開始前に、そのつど発表または掲示する） ・授業開始までにテキスト内の重要用語等を事前に調べ自己学習しておくこと。 ・授業開始時には、前回授業内容の小テストを行うことがある。 ・授業終了後は時間外学習としてテキスト、参考文献、配布資料をもとに授業ノートをまとめておく。 ・レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に取り組むこと。 		
目安時間	約60分～90分		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論」医学書院		
参考文献等	教員により参考文献は適宜紹介し、作成資料および教科書に基づき授業を展開する。		
評価の方法	レポート 50%、小テスト50%、授業進捗度によって内容は変更することがある。		
授業に関する実務経験	看護師として救急医療及び慢性期医療に携わった経験、ならびに予防医療・産業保健ネットワーク活動による労働災害医療に携わった経験などを基に、最新の情報やデータに基づき成人看護学における基盤となる考え方や理論、援助方法論について理解が深まるよう指導する。		
オフィスアワー	金曜日の16：10～16：40（但し外部出張時など変更となる場合がある）		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 裕樹	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について必要な知識を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護検査や治療における侵襲と生体反応に伴う身体・心理・生活・社会的側面に及ぼす影響についてアセスメント方法を理解する。 事例を通して、各機能障害における患者の特徴および病期から必要な看護ケアを考え、看護展開の方法を理解する。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	田中 裕樹	授業ガイダンス・各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護・呼吸機能障害ある患者の看護	シラバスの説明。各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について（講義） 呼吸機能障害ある患者の看護について①（講義）
第2回	田中 裕樹	呼吸機能障害ある患者の看護	呼吸機能障害ある患者の看護について②（講義）
第3回	田中 裕樹	循環機能障害ある患者の看護	循環機能障害ある患者の看護について（講義）
第4回	田中 裕樹	消化・吸収機能障害のある患者の看護	消化・吸収機能障害のある患者の看護について（講義）
第5回	田中 裕樹	栄養代謝機能障害のある患者の看護	栄養代謝機能障害のある患者の看護について（講義）
第6回	田中 裕樹	内部環境調節機能障害のある患者の看護	内部環境調節機能障害のある患者の看護について（講義）
第7回	田中 裕樹	内分泌機能障害のある患者の看護	内分泌機能障害のある患者の看護について（講義）
第8回	田中 裕樹	身体防御機能の障害のある患者の看護	身体防御機能の障害のある患者の看護について（講義）
第9回	田中 裕樹	脳・神経機能障害のある患者の看護	脳・神経機能障害のある患者の看護について（講義）
第10回	田中 裕樹	感覚機能障害のある患者の看護	感覚機能障害のある患者の看護について（講義）
第11回	田中 裕樹	運動機能障害のある患者の看護	運動機能障害のある患者の看護について（講義）
第12回	田中 裕樹	排尿機能障害のある患者の看護	排尿機能障害のある患者の看護について（講義）
第13回	田中 裕樹	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護について（講義）

第14回	田中 裕 樹	機能障害のある患者事例における看護過程演習①	機能障害のある患者事例における看護過程の演習
第15回	田中 裕 樹	機能障害のある患者事例における看護過程演習②	機能障害のある患者事例における看護過程の演習
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業開始までに時間外学習として30分間（計15回）、テキストを既読し授業に臨むようにする。その際学習目標の確認及び、テキスト内の重要な用語等は事前に学習を行う。 ・授業終了後は、時間外学習としてテキスト、参考文献、配布資料や授業ノートをもとに自宅で復習30分間（計15回）を行なう。・予習、復習は習慣づけるようにし、学習内容に理解不足がある場合、主体的・積極的に担当教員に質問をする。 ・レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に提出する。 		
目安時間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業開始までに時間外学習として30分間（計15回） ・授業終了後は復習30分間（計15回） 		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病 感染症」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉」 医学書院		
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚」 医学書院 ・「系統看護学講座 別巻 臨床外科学各論」 医学書院 ・「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院 ・参考文献は適宜紹介し、作成資料に基づき授業を展開する。 		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（筆記）（90%） 演習参加後の提出物（10%）で評価する。 ・授業内容・展開については変更する場合がある。 		
授業に関する実務経験	看護師として、病院で勤務していた経験を基に、教授する。		
オフィスアワー	原則水曜日は16時から17時、金曜日は16時から17時とする。ただし、都合により変更がある。		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	小児看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 小原 園子	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	小児各期にある子どもの成長・発達、日常生活における小児及び家族を取り巻く環境との相互作用を理解する。 疾病や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。発達段階に応じた病児への看護の基本となる概念を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児を取り巻く環境について知り、小児の権利や小児の擁護について考えることができる。 2. 小児の成長・発達の原則について説明でき、心理社会的発達についても述べるができる。 3. 小児の各期の特徴を理解し、形態的・機能的発達について具体的に説明できる。 4. 予防接種や学校保健法について説明できる。 5. 小児のフィジカルアセスメントについて、意義と概要を述べるができる。 6. 健康障害が小児とその家族に与える影響について考え、看護について述べるができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	小原 園子	小児看護の特徴	小児看護の対象、小児看護の目標と役割、小児看護における倫理について(講義)
第2回	小原 園子	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉の歴史、医療費の支援、特別支援教育、臓器移植について(講義)
第3回	小原 園子	子どもの成長発達	成長・発達とは、成長・発達の進み方、成長・発達に影響する因子について(講義)
第4回	小原 園子	小児看護での理論	小児における自我発達理論、認知発達理論、アタッチメント理論について(講義)
第5回	小原 園子	新生児期における成長・発達と看護	新生児期の形態・身体生理の特徴、各機能の発達、養育および看護について(講義)
第6回	小原 園子	乳児期における成長・発達と看護	乳児期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護について(講義)
第7回	小原 園子	幼児期における成長・発達と看護	幼児期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護、について(講義)
第8回	小原 園子	学童期・思春期における成長・発達と看護	学童期・思春期の形態・身体生理・感覚・運動・知的・情緒・社会的機能、養育および看護について(講義)
第9回	小原 園子	病気・障害が子どもと家族に与える影響	病気・障害に対する子どもの反応、家族の反応、子どもの健康問題と看護について(講義)
第10回	小原 園子	子どもの状況に特徴づけられる看護	入院中・外来・在宅・災害時の子どもと家族の看護について(講義)
第11回	小原 園子	慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族への看護	慢性状態が子どもに与える影響、子どもの生命・死についてのとらえ方について(講義)
第12回	小原 園子	子どものフィジカルアセスメント	アセスメントに必要な技術、身体的アセスメントについて(講義)

	子		
第13回	小原 園 子	症状を示す子どもの看護	不きげん、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック等について(講義)
第14回	小原 園 子	検査・処置を受ける子どもの看護	子どもにとっての検査・処置体験、薬物動態と薬用量の決定について(講義)
第15回	小原 園 子	虐待を受けた子どもへの看護	子どもの虐待とは、子どもの虐待に特徴的にみられる状況について(講義)
授業時間外の学習	事前に教科書を読み予習を行うこと。		
目安時間	各回1時間程度		
教科書	「系統看護学講座 専門分野2 小児臨床看護総論」医学書院		
参考文献等	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術」メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護」メディカ出版 「系統看護学講座 専門分野2 小児臨床看護各論」医学書院		
評価の方法	授業態度もしくは平常点5%、レポート試験95%		
授業に関する実務経験	看護師として、病院で勤務していた経験を基に指導する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:15～16:45		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 大西 康之	第一看護学科

授業の概要 (150文字程度)	精神看護学に関する諸モデルと精神の健康を理解するための諸概念、精神障害と治療及び看護、精神看護の場など精神看護学の基盤について学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康に関する普及啓発を理解し、偏見、差別、スティグマを理解する。 2. 精神の健康とマネジメントについて学び精神保健福祉法を説明することができる。 3. レジリエンスの考えを説明することができる。 4. 思考障害とはどういう障害か説明することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	大西 康之	現代社会の変化と精神の健康：心の病気	もえつき症候群・いじめについて（講義）
第2回	大西 康之	精神障害者の家族支援：精神障害者の援助	精神障害者地域支援について（講義）
第3回	大西 康之	心の健康と不健康：自我の機能	不安に対する援助について（講義）
第4回	大西 康之	精神力動理論 (フロイト)	エス・自我・超自我について（講義）
第5回	大西 康之	ライフサイクルとアイデンティティ	エリクソンの発達理論について（講義）
第6回	大西 康之	防衛機制危機理論とストレス	自我の防衛機種の種類について（講義）
第7回	大西 康之	救急医療と精神保健福祉の関係	ICU症候群について（講義）
第8回	大西 康之	地域精神保健福祉活動について	病院精神医学から地域へについて（講義）
第9回	大西 康之	危機への対処（コーピング）	PTSDについて（講義）
第10回	大西 康之	逸脱とスティグマ	社会的烙印について（講義）
第11回	大西 康之	精神症状と状態像	統合失調症について（講義）
第12回	大西 康之	精神科における治療	向精神病薬の歴史について（講義）
第13回	大西 康之	精神障害者の処遇	成年後見制度について（講義）
第14回	大西 康之	精神障害者の法制度	行動制限について（講義）
第15回	大西 康之	精神保健福祉法による入院形態	開放処遇について（講義）

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始までに予習として、テキストを既読し授業に臨むようにする。 ・ 講義終了後は配布した資料や授業ノートの整理をする。 ・ 予習、復習を習慣づけるようにし、学習内容を深める。
目安時間	2時間程度
教科書	武井 麻子他「系統看護学講座 専門分野2 精神看護学① 精神看護の基礎」医学書院. 2019.

参考文献等	講義の中で適宜参考書図書文献を紹介する。
評価の方法	レポート試験70% 授業参加による小テスト30%で評価する。
授業に関する実務経験	看護師として病院で勤務していた経験を基に、精神看護学の根拠を抑え倫理的配慮についても理解が深まるように指導する。
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30～17:00

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	精神看護学方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 中野 幸恵	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、入院や地域に関わらず、精神障害を持つ人や、家族の援助について学ぶ。そして、すべてのライフサイクルにある人を対象に、こころの健康を成長発達・社会適応の側面から捉え、心の健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした個人とその家族を理解し、人権を尊重した看護の実践を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、現代の医療について考えることができる。 2. すべてのライフサイクルにある人を対象とし、こころの健康を成長発達、社会適応の側面から理解できる。 3. こころの健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした対象とその家族を理解できる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	中野 幸恵	授業ガイダンス 人間関係について ①自分を知ること	授業内容のガイダンス ケアの中心が感情であること、その感情を手がかりにして、自分を知ることが重要であることを事例を通じて学ぶ。 (講義)
第2回	中野 幸恵	人間関係について ②相手を知ること	相手のことを知り、理解すること 患者へのかかわり方、精神障害をもつ人へのケアの基本的な方 (講義)
第3回	中野 幸恵	安全管理/安全を守る	患者の人権、リスクマネジメント、緊急事態の対処 (講義)
第4回	中野 幸恵	身体と心	心の痛みがどのようにして身体で表現されるのか (講義)
第5回	中野 幸恵	精神科における合併症/精神科における身体ケアの実際	抗精神病薬の副作用 身体合併症 (講義)
第6回	中野 幸恵	精神障害者を支える医療従事者	他職種連携について (講義)
第7回	中野 幸恵	心的外傷について/災害時の看護	心的外傷について/災害時の看護 心的外傷・愛着形成・エンパワメント・災害時の看護 (講義)
第8回	中野 幸恵	セルフケア理論について	セルフケア理論を学び9. 10の授業内で実際に演習を行う。(講義)
第9回	中野 幸恵	演習:看護過程の展開	演習:看護過程の展開 情報収集～関連図 (演習)
第10回	中野 幸恵	演習:看護過程の展開	看護計画立案 (演習)

第11回	中野 幸 恵	地域で暮らすために	当事者、援助者が心得ておくこと（講義）
第12回	中野 幸 恵	地域での取り組み	地域での取り組み 社会制度とその基盤となる考え方（講義）
第13回	中野 幸 恵	リエゾン精神看護	一般診療科において資料を受けている人が陥りやすい精神保健上の問題 リエゾン看護師の役割 （講義）
第14回	中野 幸 恵	ストレスマネジメント	人をケアする仕事の特性（講義）
第15回	中野 幸 恵	レジリエンスを高める まとめ	看護者自身のメンタルヘルス上の問題への対処（講義）
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について予習・復習し理解すること。 ・1回、2回目終了時にレポート課題を課すので作成し提出すること。 ・9回、10回目終了時授業で用いた事例についての課題を提出すること。 ・1回目のオリエンテーションで平成30年看護師国家試験出題基準を配布するので、授業後に<u>出題基準に沿って学習を深めていくこと。</u> 	
目安時間		1時間程度	
教科書		「系統看護学講座 専門分野2 精神看護学2 精神看護の展開」 医学書院 「看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術」メチカルフレンド社	
参考文献等		「ナーシング・グラフィカ 精神看護学2 精神障害と看護の実際」メディカ出版 「系統看護学講座 別巻 精神保健福祉」医学書院	
評価の方法		学科試験90%、レポート10%	
授業に関する実務経験		看護師として病院で勤務していた経験を基に、臨床で実施される看護技術の根拠をおさえ、倫理的配慮についても理解が深まるよう指導する。	
オフィスアワー		月～金 16時10分以降	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	看護学概論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河合 まゆみ	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護の基本的概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について学ぶと共に、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割と機能について理解を深める。また、看護の実践を支える理論などの学習を通し、自らの看護観を構築するための手がかりとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史的な変遷について理解できる。 2. ナイチンゲールやヘンダーソン等の看護論の学習をとおして、看護の本質について探究することができる。 3. 看護の対象である人間を統合的にみることの必要性について理解できる。 4. 看護実践の成り立ちと看護活動の概要について理解できる。 5. 保健・医療・福祉の中での看護の役割と他職種との連携・協働の必要性が理解できる。 6. 専門職者としての責任が理解でき、今後の看護のあり方について考察できる。
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	河合 まゆみ	ガイダンス 看護の本質	科目ガイダンス(看護学概論の位置づけ) 看護の変遷、看護の定義、看護の概念 (講義)
第2回	河合 まゆみ	看護の役割と機能	看護の役割と機能、看護とはなにか (講義)
第3回	河合 まゆみ	看護の基本概念	「人間」「健康」「環境」「看護」の概念 (演習)
第4回	河合 まゆみ	看護理論	ナイチンゲール、ヘンダーソン他 (講義)
第5回	河合 まゆみ	看護の対象の理解	統合体としての人間理解 生活者としての人間理解 (講義)
第6回	河合 まゆみ	国民の健康・生活の全体像の把握	健康のとらえ方、国民の健康の全体像、 国民のライフサイクルと健康・生活 (講義)
第7回	河合 まゆみ	国民の健康・生活の全体像の把握	健康のとらえ方、国民の健康の全体像、 国民のライフサイクルと健康・生活 (講義)
第8回	河合 まゆみ	看護の提供者	

			継続教育、キャリア開発、看護職の養成制度の課題 (講義)
第9回	河合 まゆみ	看護過程	看護過程とは (講義)
第10回	河合 まゆみ	看護における倫理	医療倫理、看護倫理 (講義)
第11回	河合 まゆみ	看護における倫理	看護実践における倫理問題への取り組み、 倫理に関する事例を用いて討議 (演習)
第12回	河合 まゆみ	看護の提供のしくみ	看護サービス提供の場、チーム医療、継続看護、 看護をめぐる制度と政策 (講義)
第13回	河合 まゆみ	看護の提供のしくみ	看護サービスの管理、医療安全 (講義)
第14回	河合 まゆみ	広がる看護の活動	国際社会と看護、災害と看護 (講義)
第15回	河合 まゆみ	これからの看護	看護とはなにか、まとめ (講義)
授業時間外の学習	紹介された文献を積極的に読み、看護理論家についてまとめを行う。 グループディスカッションへの参加は課題である個人ワークを完成させていることを必須とする。		
目安時間	各回30分程度		
教科書	系統看護学講座 看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護技術 I (医学書院)		
参考文献等	フローレンス・ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井坦子他訳『看護覚書～看護であること看護でないこと』現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 講義の際に適宜提示します。		
評価の方法	試験 (80%) 提出物 (20%)		
授業に関する実務経験	看護師として、病院で勤務していた経験を基に授業を展開する。		
オフィスアワー	講義終了後10分間		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	看護学概論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	3年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山口 美晴	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護管理を管理者だけでなく、看護実践者にも必要なものととらえることを前提とし、看護実践の場が地域へと拡大されるなど【看護の統合と実践の拡充】に係る現状でのチーム医療、多職種との協働、看護サービスのマネジメントの知識と技術、キャリア開発の必要性などを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ケアシステムや看護組織について理解ができる 2. 看護サービスのマネジメントに必要な知識と技術が理解できる 3. 看護提供方式を理解し、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる 4. 看護職と専門職性について理解し、キャリア開発の必要性が理解できる
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。</p>

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	山口 美晴	看護管理とは	看護管理とは、看護におけるマネジメント、マネジメントの考え方の変遷 (教科書および配布資料に沿って講義)
第2回	山口 美晴	看護ケアのマネジメントと看護職の機能	看護ケアのマネジメントと看護職の機能、看護ケア提供者としての機能 (教科書および配布資料に沿って講義)
第3回	山口 美晴	患者の権利 医療安全	患者の権利の尊重、安全管理、医療事故対策、組織におけるリスクマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)
第4回	山口 美晴	チーム医療、看護職の責任と役割、他職種との連携・協働	チーム医療、看護職の責任と役割、他職種との連携・協働業務のマネジメント、看護基準と看護手順、看護記録 (教科書および配布資料に沿って講義)
第5回	山口 美晴	看護サービスのマネジメント	看護サービスの提供の仕組み、組織目的達成のマネジメント看護の組織化、看護ケア提供システム (教科書および配布資料に沿って講義)
第6回	山口 美晴	人材のマネジメント、看護職の教育制度	人材のマネジメント、看護職の教育制度、継続教育、労働環境、看護の質の評価、施設・設備環境・物品・情報のマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)
第7回	山口 美晴	看護職と専門職性、看護職と法制度	看護を取り巻く諸制度、看護の定義、看護職と専門職性、看護職と法制度医療法、その他の関係法規 (教科書および配布資料に沿って講義)
第8回	山口 美晴	マネジメントプロセス、組織文化	

		マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップ理論、コミュニケーション、動機づけ理論、ストレスマネジメント (教科書および配布資料に沿って講義)
授業時間外の学習	教科書および資料による予習と授業後の復習 必要時、レポート課題を課す	
目安時間	各回 1 時間程度	
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 1 医学書院	
参考文献等	日本看護協会：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2016. 日本看護協会出版会, 2016 日本看護協会編：看護白書. 日本看護協会出版会, 2016	
評価の方法	試験（筆記）100%	
授業に関する実務経験	看護管理者あるいは医療安全管理者として、病院で勤務していた経験を基に、看護管理について指導する	
オフィスアワー	講義終了後 1 時間	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎看護学方法論Ⅵ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 松本 明子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護の対象者の身体的状況を系統的かつ客観的に診査し、健康であるかどうかをアセスメントするための方法を学習する。健康障害のある人の身体的機能に直接働きかけ、科学的根拠に基づいて呼吸を整える援助方法を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの目的が理解できる。 2. 人体の構造と機能を踏まえて、安全安楽を考慮したフィジカルアセスメントの方法について理解できる。 3. 呼吸を整えるために必要な技術（酸素吸入療法、吸引、排痰ケア、吸入、人工呼吸療法）の目的、原理原則が理解できる。 4. 呼吸を整えるための基本的な技術（酸素吸入療法、吸引、排痰ケア、吸入）を習得できる。
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</p>

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	松本 明子	ガイダンス フィジカルアセスメント	科目ガイダンス 系統的フィジカルアセスメント 1. ケアにつながるフィジカルアセスメント 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメント（講義）
第2回	松本 明子	フィジカルアセスメント	系統的フィジカルアセスメント 3. 循環器系のフィジカルアセスメント 4. 腹部のフィジカルアセスメント（講義）
第3回	松本 明子	フィジカルアセスメント	系統的フィジカルアセスメント 5. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 6. 筋肉・骨格系のフィジカルアセスメント（講義）
第4回	松本 明子	フィジカルアセスメント	系統的フィジカルアセスメント 7. 神経系のフィジカルアセスメント（講義）
第5回	松本 明子	フィジカルアセスメント	系統的フィジカルアセスメント 8. 頭頸部・感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント（講義）
第6回	松本 明子	フィジカルアセスメント	心理・社会状態のアセスメント 1. 心理的側面のアセスメント 2. 社会的側面のアセスメント（講義）
第7回	松本 明子	呼吸を整える技術	1. 酸素吸入療法 2. 排痰ケア（体位ドレナージ、咳嗽助動、ハフティング）（講義）
第8回	松本 明子	呼吸を整える技術	3. 排痰ケア（口腔内吸引、気管内吸引） 4. 持続吸引（胸腔ドレナージ）（講義）

第9回	松本 明子	呼吸を整える技術	5. 吸入 6. 人工呼吸療法 (講義)
第10回	松本 明子 磯田 容子 平林 潤子 他	フィジカルアセスメント	呼吸器系、循環器系、腹部のフィジカルアセスメント (演習)
第11回	松本 明子 磯田 容子 平林 潤子 他	フィジカルアセスメント	呼吸器系、循環器系、腹部のフィジカルアセスメント (演習)
第12回	松本 明子 磯田 容子 平林 潤子 他	呼吸を整える技術	系統別フィジカルアセスメント (ROM、MMT) 呼吸を整える技術 (演習)
第13回	松本 明子 磯田 容子 平林 潤子 他	呼吸を整える技術	系統別フィジカルアセスメント (ROM、MMT) 呼吸を整える技術 (演習)
第14回	松本 明子	フィジカルアセスメント	事例を用いたアセスメント (講義)
第15回	松本 明子	まとめ	系統別フィジカルアセスメント、呼吸を整える技術 (講義)
授業時間外の学習	初回講義時のガイダンスにて説明します。 ・事前課題の取り組みと事後学習が必須です。 ・技術の修得に向けて積極的に練習を重ねてください。		
目安時間	各回1時間程度		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野 香おる 他：「系統的看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」医学書院 ・任 和子 他：「系統的看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」医学書院 ・三上 れつ 他：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして NOUVELLE HIROKAWA ・横山 美樹 他：「はじめてのフィジカルアセスメント」メヂカルフレンド社 		
参考文献等	講義の際に適宜提示します。		
評価の方法	試験(筆記試験)80%、課題 20%		
授業に関する実務経験	看護師として、病院で勤務していた経験を基に、フィジカルアセスメントについて指導する。		
オフィスアワー	講義終了後10分間		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎看護学方法論Ⅶ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 磯田 容子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	診療を支える看護師の役割を理解し、検査や治療を受ける患者の看護において必要となる技術を習得する。単に援助方法を学ぶのではなく、根拠に基づいた実践方法を育む。
到達目標	1. 創傷とその治癒のメカニズムを知り、創傷管理技術について理解できる。 2. 与薬における基礎知識及び注射・輸血管理などの与薬技術について理解できる。 3. 診察・検査を実施するための方法を理解し、安全・安楽に配慮した援助ができる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。修得した知見を他者に論理的に説明できる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	磯田 容子	ガイダンス	科目ガイダンス 診療を支える看護師の役割 1. 創傷の基礎知識 (講義)
第2回	磯田 容子	創傷管理技術	2. 創傷処置 包帯法 (講義)
第3回	磯田 容子	創傷管理技術	3. 褥瘡予防 (講義)
第4回	磯田 容子	症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 3. 生体情報のモニタリング (講義)
第5回	磯田 容子	診察・検査・処置の介助技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 (講義)
第6回	磯田 容子	与薬の技術	1. 与薬の基礎知識 2. 経口内与薬・口腔内与薬 (講義)
第7回	磯田 容子	与薬の技術	3. 吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬 (講義)
第8回	磯田 容子	与薬の技術	4. 採血・注射 (講義)
第9回	磯田 容子	与薬の技術	5. 注射・輸血管理 (講義)
第10回	磯田 容子 平林 潤子 松本 明子 他	与薬の技術	注射器の取り扱い① 採血 (演習)
第11回	磯田 容子 平林 潤子 松本 明子 他	与薬の技術	注射器の取り扱い② 注射法：筋肉内注射・皮下注射・皮内注射 (演習)
第12回	磯田 容子 平林 潤子	与薬の技術	注射器の取り扱い② 注射法：筋肉内注射・皮下注射・皮内注射 (演習)

	松本 明子 他		
第13回	磯田 容子 平林 潤子 松本 明子 他	与薬の技術	注射器の取り扱い③ 注射法：静脈内注射・点滴静脈内注射 (演習)
第14回	磯田 容子 平林 潤子 松本 明子 他	与薬の技術	注射器の取り扱い③ 注射法：静脈内注射・点滴静脈内注射 (演習)
第15回	磯田 容子	まとめ	まとめ (講義)
授業時間外の学習	初回ガイダンス時に説明します。 演習前には事前課題と、演習後には事後課題を課す。技術修得にむけ、積極的に練習を重ねること。		
目安時間	各回2時間程度		
教科書	茂野 香おる 他「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③」医学書院 三上 れつ 他「演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして」NOUVELLE HIROKAWA		
参考文献等	講義の際に適宜提示します。		
評価の方法	試験(筆記)90% 提出物10%		
授業に関する実務経験	看護師として、病院勤務していた経験を基に、授業を行います。		
オフィスアワー	授業終了後10分間		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 八幡 久美子	第二看護学科

授業の概要 (150文字程度)	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向について教授する。生活習慣や職業と健康障害との関連や、健康障害の予防や健康の保持・増進・回復のための看護実践について学ぶ。成人看護に有用な理論や概念、成人学習についても教授する。成人の紙上事例に対する具体的な看護介入を学ぶ。また成人看護学総論の国家試験問題に取り組む。
到達目標	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向、生活習慣や職業と健康障害との関連について、グループワーク・発表等を通して理解できる。 健康の保持・増進、疾病の予防、健康障害のある成人の健康回復のための看護実践について理解できる。 理論や概念をもとに成人の特徴を理解し、看護実践について考えることができる。 修得した知識をもとに、紙上事例の看護介入を考えることができる。 修得した知識をもとに、成人看護学総論の国家試験問題を解くことができる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	八幡 久美子	成人の特徴	成人とは、大人とは、成人の区分・発達課題・役割、成人各期の特徴、成人と死 (講義)
第2回	八幡 久美子	成人の特徴	身体機能の特徴と看護 (講義)
第3回	八幡 久美子	生活の特徴	成人の生活 (講義)
第4回	八幡 久美子	健康観	多様な健康観から看護を考える…自立度・自尊心・QOLなど (講義)
第5回	八幡 久美子	成人学習	アンドラゴジーとエンパワメントの概念から、成人学習と成人看護を考える (講義)
第6回	八幡 久美子	健康問題	生活習慣と健康障害との関連、職業に関連する健康障害「国民衛生の動向」の文献から成人の保健問題とその動向について (事前課題あり) (発表)
第7回	八幡 久美子	健康問題	生活習慣と健康障害との関連、職業に関連する健康障害「国民衛生の動向」の文献から成人の保健問題とその動向について (事前課題あり) (発表)
第8回	八幡 久美子	健康障害	生活ストレスやセクシャリティに関連する健康障害 (講義)

第9回	八幡 久美子	健康障害	余暇活動に伴う健康障害, 更年期にみられる健康障害 (講義)
第10回	八幡 久美子	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…病みの軌跡, セルフケア (講義)
第11回	八幡 久美子	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…ストレス, 危機 (講義)
第12回	八幡 久美子	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…適応, 自己効力, ヘルスプロモーション (講義)
第13回	八幡 久美子	紙上事例	事例から成人患者の看護介入を考える (事前課題あり) (発表)
第14回	八幡 久美子	紙上事例	事例から成人患者の看護介入を考える (事前課題あり) (発表)
第15回	八幡 久美子	小テスト	成人看護学総論の国家試験問題と解説 (講義)
授業時間外の学習	事前に教科書を読み予習することと、授業のあとに教科書や資料を読み復習を行う。 文献や信頼のおけるインターネット情報を活用して、教員の提示する課題に取り組む。		
目安時間	各回1時間程度 各回5時間程度		
教科書	安酸史子編「ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論」メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考文献等	ピエール・ウグ「慢性疾患の病みの軌跡」医学書院 佐藤栄子「中範囲理論入門」日総研, その他、適宜紹介していく。		
評価の方法	試験90%、課題の取り組み10%で評価する。		
授業に関する実務経験	看護師として病院をはじめとする医療機関で勤務していた経験をもとに授業を展開する。		
オフィスアワー	講義終了後10分間		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	老年看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 播木 清美	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	老年看護の視点は、高齢者のもてる力を維持・継続させ、その人に適した支援をすることである。紙上患者をもとに老年期にある対象を身体的・精神的・社会的に捉え、情報の整理・分析・統合・看護診断を行い計画立案し、演習を行う。個人ワークやグループワークを通して、主体的に学びを深める。
到達目標	老年看護に必要な知識、技術、態度を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を全人的に理解する。 ・高齢者の健康上の問題、生活者としての視点でアセスメントできる。 ・健康課題を軽減するための看護計画を対象の個性をふまえて立案することができる。 ・実践した看護を評価し必要に合わせて修正することができる。 ・高齢者に対し倫理的配慮ができる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族と共感をもって接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	播木 清美	事例紹介	ガイダンス・事例紹介・事前学習 (講義)
第2回	播木 清美	老年看護過程	老年看護過程の考え方 (講義)
第3回	播木 清美	情報の分析	情報の分析 (講義)
第4回	播木 清美 小夜 貴文 船瀬 孝子	情報の分析	情報の分析 (講義・グループワーク)
第5回	播木 清美 小夜 貴文 船瀬 孝子	関連図	関連図 (講義・グループワーク)
第6回	播木 清美 小夜 貴文 船瀬 孝子	計画立案	計画立案 (講義・グループワーク)
第7回	播木 清美	事例の解説	事例の解説 (講義)
第8回	播木 清美	看護過程の追加	看護過程の追加・修正 (講義)
第9回	播木 清美 小夜 貴文 船瀬 孝子	演習計画書	演習計画書作成 (グループワーク)
第10回	播木 清美 小夜 貴文	実技演習	演習計画書をもとに演習を行う (演習)

	船瀬 孝子		
第11回	播木 清美 小夜 貴文 船瀬 孝子	実技演習	演習計画書をもとに演習を行う (演習)
第12回	播木 清美	まとめ	グループでのまとめ (グループワークにてレポート作成)
第13回	播木 清美	問題点の抽出・立案	事例提示・問題点の抽出・立案 (講義)
第14回	播木 清美	問題点の抽出・立案	問題点の抽出・立案 (講義)
第15回	播木 清美	目標志向型思考	目標志向型思考の考え方 (講義)
授業時間外の学習	事前に高齢者の特徴についてまとめておくこと。 授業時間内に到達しなかったところ。		
目安時間	事前に高齢者の特徴についてまとめておくこと。 3時間程度 授業時間内に到達しなかったところ。 各3時間程度		
教科書	北川公子他：系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院		
参考文献等	紙上事例に応じた、履修科目の教科書、授業資料等、その他、参考文献を適宜紹介していく。		
評価の方法	記録提出(内容)75% 演習15% レポート10%(第13回・14回)		
授業に関する実務経験	看護師として、病院・診療所で勤務していた経験を基に、老年看護の看護過程について指導する。		
オフィスアワー	講義終了後10分間		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	母性看護学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 中村 乃利子	第二看護学科

授業の概要 (150文字程度)	母性の概念を理解し、母性を取り巻く社会状況と母子保健の動向とそれに関する施策・制度について学び、家族と地域社会を繋ぐ必要性を理解する。また、女性とパートナーとしての男性の健康の保持・増進を目指し、次世代の子どもを健全に育成するために、親になる過程に必要な看護を考える力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性の基盤となる概念を理解できる。 母性看護の在り方、倫理について理解することができる。 母性看護の対象を取り巻く環境の動向と法律・施策について理解できる。 次世代健全育成のために、地域社会での支援システムとその必要性を理解し看護師としての関わり方を学ぶ。 人間の性と生殖について理解し、生命について自己の考えが深まる。 女性のライフサイクルにおける特性と健康に影響を与える要因について理解できる。
学位授与方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> 看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。ついて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	中村 乃利子	母性の概念1	授業のオリエンテーション：母性・父性・についてのイメージ (講義)
第2回	中村 乃利子	母性の概念2	母性とは「母性の定義」・母性看護の変遷 (講義)
第3回	中村 乃利子	親になること	母性・父性から親性・養育性・家族 (講義)
第4回	中村 乃利子	リプロダクティブヘルス / ライツ	性的健康と性的権利/ 女性を中心としたケア/自己決定権 (講義)
第5回	中村 乃利子	母子保健統計の理解	労働力に関連する諸要因/母子保健水準と統計値/諸外国との比較 周産期医療体制 (講義)
第6回	中村 乃利子	母子にかかわる法律と社会資源1	母子の健康・就労・福祉など関する法律/健やか親子21 2次/少子化対策 (講義)
第7回	中村 乃利子	生殖に関する機能と ライフサイクル/遺伝	発生・性周期 (講義)
第8回	中村 乃利子	生殖に関する機能とライフサイクル/遺 伝	遺伝子と遺伝/不妊の原因と治療 (講義)
第9回	中村 乃利子	ジェンダー	

			ジェンダーとは 女性らしさ/男性らしさを考える。 (講義)
第10回	中村 乃利子	ライフサイクルにおける性と生殖を めぐる健康支援	女性のライフサイクル全体像 (講義)
第11回	中村 乃利子	思春期の健康支援	思春期の特徴と健康課題/性感染症 (講義)
第12回	中村 乃利子	成熟期の健康支援	成熟期の特徴と健康課題授業 (講義)
第13回	中村 乃利子	更年期/老年期の健康支援	更年期・老年期の特徴と健康課題 (講義)
第14回	中村 乃利子	リプロダクティブヘルス/ライツと 家族計画	避妊/受胎調節/DVと女性への支援 (講義)
第15回	中村 乃利子	国際化	在日外国人女性の健康/在日外国人女性の妊娠・出産・産後 (講義)
授業時間外の学習	①予習をして授業に臨むこと。 ②第5回と第10回終了後には授業テーマに関するレポート課題を課す。		
目安時間	①各回1時間程度 ②各回2時間程度		
教科書	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院		
参考文献等	国民衛生の動向・母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル 南江堂		
評価の方法	試験(筆記試験)100% 試験後、個人の解答用紙は返却しないが開示は可能とする。		
授業に関する実務経験	助産師として病院で勤務していた経験を基に授業を展開する。		
オフィスアワー	月曜日16:30~17:00・金曜日 16:30~17:00		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	小児看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次 ・後期		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 橘 依子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	小児医療の場で求められている看護実践能力の習得を目指し、様々な健康レベルにある子どもと家族に適した看護を実践する能力(知識・技術・態度)を養う。
到達目標	1. 子どもに起こりやすい疾患を理解できる。 2. 子どもの特徴をとらえた看護過程について理解できる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	橘 依子	肺炎の子どもと家族の看護	肺炎の病態と症状・看護について(講義)
第2回	橘 依子	川崎病の子どもと家族の看護	川崎病の病態、重篤な合併症について(講義)
第3回	橘 依子	気管支喘息の子どもと家族の看護	気管支喘息の病態と症状・看護について(講義)
第4回	橘 依子	ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護看護過程	ネフローゼ症候群のメカニズム、生活制限のある子どもの看護看護過程ガイダンス(講義)
第5回	原 千恵	ハイリスク新生児と家族の看護	低出生体重児の疾患・看護、新生児仮死について(講義)
第6回	原 千恵	疾患別看護復習小テスト①看護過程	第1回～第5回までの理解度確認、看護過程(フェイスシート・疾患理解・子どものすがたの書き方)(講義)
第7回	橘 依子	伝染性疾患の子どもと家族の看護看護過程	伝染性疾患の症状と経過、予防方法、対処方法 受け持ち患児記録(健康知覚)の書き方(講義)
第8回	橘 依子	ファロー四徴症の子どもと家族の看護看護過程	ファロー四徴症のメカニズム、先天性心疾患を持つ家族の苦痛、受け持ち患児記録(栄養・代謝)書き方(講義)
第9回	橘 依子	白血病の子どもと家族の看護看護過程	白血病の病態、悪性疾患に罹患した子どもと家族の苦痛 受け持ち患児記録(排泄・活動・運動)書き方(講義)
第10回	橘 依子 原 千恵	糖尿病の子どもと家族の看護看護過程	1型糖尿病について、自己管理について、慢性疾患を持つ子ども・家族の負担 受け持ち患児記録(睡眠・休息、認知・知覚)書き方(講義)
第11回	橘 依子 原 千恵	疾患別看護復習小テスト②看護過程	第7回～第10回までの理解度確認 受け持ち患児記録(自己知覚、役割、性、コーピング、価値)書き方(講義)
第12回	橘 依子	肥厚性幽門狭窄症・腸重積症・ヒルシュ	肥厚性幽門狭窄症・腸重積症・ヒルシュプルング病の特徴と治療法、乳

		プルング病の子どもと家族の看護 看護過程	児期に疾患を持ち手術療法を受ける子どもの保護者について 受け持ち患児記録（看護計画）書き方（講義）
第13回	橋 依子 原 千恵	先天的な異常を持つ子どもと家族の看護 看護過程	主に先天性疾患、先天性疾患をもつ子どもと家族の受容段階 受け持ち患児記録（SOAP）書き方（講義）
第14回	橋 依子	髄膜炎の子どもと家族の看護、看護過程	髄膜炎について 小児看護学実習日々の振り返り用紙書き方（講義）
第15回	橋 依子	疾患別看護復習小テストまとめ	第1回～第14回までの理解度確認（テスト・講義）
授業時間外の学習	小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰの知識が必須。授業の予習・復習もすること。 看護過程においては、教員の解説をもとに個人ワークを進める。		
目安時間	各回1～2時間程度		
教科書	奈良間美穂：系統看護学講座 小児臨床看護学総論、小児臨床看護学各論 医学書院		
参考文献等	筒井真優美：小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研 白木和夫他：ナースとコメディカルのための小児科学 日本小児科医事出版社 松森直美他編：小児看護ケアモデル実践集 へるす出版 荃津智子編著：小児看護学過程		
評価の方法	試験（筆記）100%		
授業に関する実務経験	看護師、保健師として病院や施設で勤務していた経験を基にして、指導する。		
オフィスアワー	講義終了後10分程度		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 谷川 英二	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	精神看護学概論では現代社会に影響を受ける心の健康、健康問題を学び、メンタルヘルスの意義と必要性を知るのを目指す。精神科医療の歴史の変遷から精神障がい者の理解を図り、人権擁護、法律の意義・必要性について学ぶ。また、社会的側面として精神保健福祉を学ぶことで、精神看護を行うための基礎的な知識が習得できるように目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達とこころの健康を理解することができる。 2. こころの健康の保持・増進を学ぶことができる。 3. 精神看護の対象を理解することができる。 4. 精神看護の意義を学ぶことができる。 5. 精神の歴史の変遷を学ぶことができる。 6. 精神にかかわる法制度を学ぶことができる。
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	谷川 英二	精神科看護と精神看護	授業のガイダンス 精神看護について、精神看護の意義と役割(講義・個人課題)
第2回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、個人課題・グループ間で話し合った内容・考えをもとに、共有するための発表資料をグループで作成する。(発表準備・講義)
第3回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、個人課題・グループ間で話し合った内容・考えをもとに、共有するための発表資料をグループで作成する。(発表準備・講義)
第4回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、各グループで発表(発表・講義)
第5回	谷川 英二	精神看護で学ぶこと	「心のケア」と現代社会・精神障害の体験と精神看護(講義)
第6回	谷川 英二	精神看護で学ぶこと	精神看護で何を学ぶのか(講義)
第7回	谷川 英二	精神保健の考え方	精神の健康とは・精神障害のとらえ方・ストレスと健康の危機(講義)
第8回	谷川 英二	人間の心の働きとパーソナリティ	人間の心の諸活動(講義)
第9回	谷川 英二	人間の心の働きとパーソナリティ	心のしくみと人格の発達(確認問題・講義)
第10回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と治療の歴史(世界史)(講義)

第11回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と治療の歴史（日本史）（講義）
第12回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と文化—多様性と普遍性・精神障害と社会学（講義）
第13回	谷川 英二	精神保健に関する法律と制度	精神科領域に必要な法律（講義）
第14回	谷川 英二	精神保健に関する法律と制度	法律・制度における課題・主要な精神保健医療福祉対策（講義）
第15回	谷川 英二	総まとめ	学習のまとめ（講義・確認問題・復習）
授業時間外の学習	事前に教科書を読み予習を行うこと。授業後、理解が不十分だったところは復習し補うこと。第1回・2回と演習後には「精神科のイメージ」「心とは・精神とはについて」のレポート。グループワーク終了後は、相互評価用紙の課題を課す。その他、授業内容に合わせて課題提出を提示する。		
目安時間	各回1時間程度		
教科書	著書代表：武井朝子 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 著書代表：武井朝子 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院		
参考文献等	監修：佐藤壹三 新体系看護学全書 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社 監修：松下正明 精神看護学 医学芸術社		
評価の方法	試験（ペーパーテスト） 100%		
授業に関する実務経験	看護師として病院で勤務していた経験を基に、人間の心の在り方や、健康上の問題について考える機会を提供したり、基礎知識を指導する。		
オフィスアワー	講義終了後10分間		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	在宅看護概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 狩野 由紀子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	社会的背景から医療体制が施設から在宅へと移行し、在宅看護の期待される役割は大きくなっている。在宅ケアを支える制度として各制度や社会資源を学び、在宅看護の基本的な知識を身に付ける。そして、地域で生活をしている対象者とその家族の多様な健康課題の特徴と支援の在り方を理解し、保健・医療・福祉の連携や協働と看護の役割や継続看護の必要性を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴について理解することができる。 2. 在宅看護の対象者、場所、看護援助について理解することができる。 3. 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について理解することができる。
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。</p> <p>患者あるいは対象者となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。</p> <p>自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。</p> <p>修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</p> <p>チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ち積極的に関わることができる。</p> <p>医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	狩野 由紀子	在宅看護とは	在宅看護の概念、在宅看護背景（講義・演習）
第2回	狩野 由紀子	在宅看護の特徴	在宅看護の目的と特徴（講義・演習）
第3回	狩野 由紀子	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者（講義・演習）
第4回	狩野 由紀子	支援について	在宅療養の支援（講義・演習）
第5回	狩野 由紀子	法令・制度	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用①（講義・演習）
第6回	狩野 由紀子	法令・制度	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用②（講義・演習）
第7回	狩野 由紀子	法令・制度	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用③（講義・演習）
第8回	狩野 由紀子	倫理的課題	在宅看護における倫理的課題、権利保障（講義・演習）
第9回	狩野 由紀子	倫理的課題	在宅看護における倫理的課題、権利保障（講義・演習）
第10回	狩野 由紀子	在宅看護過程	在宅看護の展開①（療養上のリスクマネジメント）（講義・演習）
第11回	狩野 由紀子	看護過程の特徴	在宅看護の展開②（地域との連携・社会資源について）（講義・演習）
第12回	狩野 由紀子	訪問看護の制度	訪問看護ステーションに関する規程と利用手続き（講義・演習）
第13回	狩野 由紀子	看護の実際	訪問看護でのマナー（講義・演習）
第14回	狩野 由紀子	在宅看護の現状と未来	在宅看護の現在の課題と今後の方向性（講義・演習）
第15回	狩野 由紀子	総まとめ	まとめ

授業時間外の学習	教科書による予習と授業後の復習
目安時間	1時間
教科書	在宅看護論 医学書院
参考文献等	ナーシング・グラフィカ 「地域療養を支えるケア」 メディカ出版 事例で学ぶ在宅看護論 メジカルフレンド社
評価の方法	100点満点 試験（筆記）70%、演習・レポート課題 30% 講義の順番については前後する場合がある。その場合は事前に連絡する。
授業に関する実務経験	訪問看護師としての臨床経験により得た知識・技術を生かした実習指導を行う。
オフィスアワー	講義終了後10分間

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学概論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 北本 さゆり	専攻科
非常勤講師	菊川 縫子	専攻科

授業の概要(150文字程度)	公衆衛生看護の理念・目的、対象、活動方法についての基礎を学ぶ。公衆衛生および公衆衛生看護とは何かについて、歴史的な変遷と社会環境と関連させて理解する。健康課題の解決のための活動方法や社会資源について理解する。公衆衛生看護活動の展開方法について、実習する市区町村の活動と照らし合わせて理解する。ゲストスピーカーによる講義あり。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念・目的、対象、方法について理解することができる。 2. 公衆衛生についての歴史を理解し、社会環境と関連させて理解することができる。 3. 地域の健康問題解決のための活動方法についての基本的な知識を身につけることができる。 4. 公衆衛生看護活動の展開方法について理解し、地域に応じた具体的方法を考えることができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。 地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	北本 さゆり	公衆衛生看護の理念と目的	地域における保健師の保健活動に関する基本的指針・個から集団へつながる活動（講義）
第2回	北本 さゆり	公衆衛生看護の対象と場	公衆衛生看護の対象・公衆衛生看護の場・保健所と保健センター（講義）
第3回	北本 さゆり	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	プライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションについて（講義）
第4回	北本 さゆり	人口及び疾病構造の変化	人口の推移・人口動態・疾病構造の変化について（講義）
第5回	北本 さゆり	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法・社会格差（講義・演習）
第6回	北本 さゆり	保健計画の策定	公衆衛生看護活動の計画・計画における市民参加（講義・演習）
第7回	北本 さゆり 菊川 縫子	公衆衛生の歴史	公衆衛生制度のあゆみ（講義）
第8回	北本 さゆり 菊川 縫子	公衆衛生活動の実際	公衆衛生活動の実際・放射線の人体への影響（講義）

授業時間外の学習	事前にテキストで予習し、講義の内容の理解を進めること。講義内容に出てきた用語について、復習して理解を深める。
----------	--

目安時間	1時間程度
教科書	「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院 「地域保健ノート」公益財団法人大阪公衆衛生協会 「国民衛生の動向2019/2020」 厚生労働統計協会
参考文献等	授業時間内に適宜紹介
評価の方法	定期試験(筆記試験) 80%、演習の参加状況や授業態度及び課題20% 定期試験後、個人の解答用紙は返却しないが口頭で解説する。
授業に関する実務経験	行政保健師として勤務していた経験をもとに、公衆衛生看護の理論や展開方法について指導する。
オフィスアワー	火曜日12:00~13:00

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学概論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 北本 さゆり	専攻科

授業の概要 (150文字程度)	公衆衛生看護の対象と活動方法について、個人・家族、集団、地域を捉える視点を理解し、活動の場の特性と活動方法を関連させて考えることを学ぶ。支援技術、施策へと発展させるために必要な理論・理念・方法を理解できる。災害時の行政の機能および保健師の役割について理解できる。
到達目標	1. 地域の健康問題解決のための社会資源について基本的な知識を身につけることができる。 2. 公衆衛生看護活動についてアセスメントから立案、実施、評価まで一連の流れに沿って理解することができる。 3. 災害時の行政の機能および保健師の役割について理解することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	北本 さゆり	公衆衛生看護の活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法（講義）・実習地における保健師活動（グループワーク）
第2回	北本 さゆり	公衆衛生看護の活動の実際	地域の健康問題解決のための方法および社会資源について（講義・グループワーク）
第3回	北本 さゆり	災害時における保健活動1	災害時における保健師活動の実際（講義）
第4回	北本 さゆり	災害時における保健活動2	災害サイクルの各期における保健師活動（講義）
第5回	北本 さゆり	災害時の組織的対応	発災直後の組織的対応と避難所運営（講義・演習）
第6回	北本 さゆり	平常時における災害対策	避難行動要支援者への支援及び平常時における災害対策（講義・演習）
第7回	北本 さゆり	地域共生社会	地域共生社会における保健師の役割（講義）
第8回	北本 さゆり	公衆衛生看護における活動理論	公衆衛生看護を展開する上で活用できる理論（講義・演習）

授業時間外の学習	事前にテキストで予習し、講義内容の理解を進めること。グループワークでの演習内容を整理し、理解を深めること。実習地域で行われている公衆衛生看護活動や実習地域の社会資源について調べておくこと。
目安時間	各回1時間程度
教科書	「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院
参考文献等	授業時間内に適宜紹介
評価の方法	定期試験（筆記試験）80% 演習の参加状況や授業態度20% 定期試験後、個人の解答用紙は返却しないが、口

	頭で説明する。
授業に関する実務経験	行政保健師として勤務していた経験をもとに、公衆衛生看護活動の実際や災害時の保健師活動等について指導する。
オフィスアワー	火曜日 12 : 00 ~ 13 : 00

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	成人保健指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 山下 裕子	専攻科

授業の概要(150文字程度)	成人期の特徴と役割、生活と健康障害との関連を学び、健康増進と生活習慣病対策を中心に、国の動向及び地域における保健活動について理解を深める。また、感染症、特に結核、HIV感染症、B・C型肝炎について最近の動向と対策を学ぶ。がん予防についての地域の取り組みや治療の動向と施策を習得する。さらに、地域で生活する難病療養者の生活を理解し、難病対策と地域保健活動について学ぶ。
到達目標	1. 成人保健の動向や生活習慣病対策、保健活動について理解することができる。 2. 感染症の最近の動向や結核の管理体系、保健活動について理解することができる。 3. 難病療養者の生活、難病対策と保健活動について理解することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	山下 裕子	感染症保健活動①	感染症の最近の動向と公衆衛生看護活動(講義)
第2回	山下 裕子	感染症保健活動②	結核の管理体系と公衆衛生看護活動(講義)
第3回	山下 裕子	感染症保健活動③	性感染症における公衆衛生看護活動(講義)
第4回	山下 裕子	難病保健活動	難病保健の動向と施策(講義)
第5回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導①	成人保健施策・健康日本21・特定健康診査・特定保健指導(講義)
第6回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導②	がんの予防と対策(講義)
第7回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導③	糖尿病の現状と保健指導(講義)
第8回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導④	インスリン抵抗性と生活習慣病(講義)

授業時間外の学習	結核についてのレポートを作成すること。また、授業時間内に小テストを行う。 授業の予習・復習を行うこと。
目安時間	30時間
教科書	「最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①」メヂカルフレンド社 「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②」メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向 2019/2020」厚生労働統計協会 「2018年改訂 沖田くんのタイムスリップ」結核予防会
参考文献等	なし
評価の方法	レポート(60%)、小テスト(40%)
授業に関する実務経験	保健師として行政で勤務していた経験を基に成人保健・感染症保健・難病保健について指導する。
オフィスアワー	講義前または終了後10分間

シラバス参照

講義名	健康教育論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 朝山 友介	専攻科

授業の概要(150文字程度)	健康教育Ⅰで学んだことをもとに、地域（公衆衛生看護実習Ⅱ）で健康教育を展開するための応用力・創造性を育み、地位のニーズに適応した健康教育計画作成と媒体・シナリオ作成を学ぶ。また、実際に地域で実施した健康教育の評価をPDCAサイクルの視点で評価する。さらに、健康教育に活かせる理論を習得し、地域での応用方法について考える力を養う。
到達目標	1. 健康教育について、対象の健康問題と関連させて企画し、実践、評価する能力を身につけることができる。 2. 臨地実習の場でグループとして健康教育を実践することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	朝山 友介	健康教育に活かせる理論①	健康教育に活かせる理論（講義）
第2回	朝山 友介	地域に応じた健康教育計画書の作成	計画書の立案（演習）
第3回	朝山 友介	地域に応じた健康教育の実践①	健康教育の準備（演習）
第4回	朝山 友介	地域に応じた健康教育の実践②	健康教育の準備（演習）
第5回	朝山 友介	健康教育の実践発表 （地域実習）	健康教育の発表（発表）
第6回	朝山 友介	健康教育の実践発表 （地域実習）	健康教育の発表（発表）
第7回	朝山 友介	健康教育の評価②	グループワーク（演習）
第8回	朝山 友介	健康教育に活かせる理論②	健康教育に活かせる理論（講義）

授業時間外の学習	グループで議論を深め、実践にいかすこと。
目安時間	30時間程度
教科書	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」医学書院
参考文献等	特になし
評価の方法	筆記試験（80%）、実践評価（20%）定期試験後の個人の解答用紙は返却しない。
授業に関する実務経験	保健師として行政、医療機関で勤務した経験を基に健康教育の理論と実践について指導する。
オフィスアワー	月曜日、火曜日16:10～17:15